「世界の北海道」を目指して
ー北海道総合開発計画ー

ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

令 和 ６ 年 ２ 月 ５ 日
旭 川 開 発 建 設 部

旭川ブロック 優秀賞、奨励賞受賞団体を表彰

～「わが村は美しくー北海道」運動第１１回コンクール表彰式～

令和６年１月１９日にお知らせしました「わが村は美しくー北海道」運動第１１回コンクール旭川ブロック受賞団体への表彰式の日程等が下記のとおり決定しましたので、お知らせします。

記

【優秀賞表彰式】
受賞団体：名寄市立大学援農ボランティアの会
日　　時：現在日程調整中のため、決まり次第お知らせします。
場　　所：名寄市立大学（名寄市西四条北８丁目１）

【奨励賞表彰式】
受賞団体：①JA ふらの女性大学
日　　時：令和６年２月７日（水）　１５：００～
場　　所：ふらの農業協同組合（富良野市朝日町３番１号）

受賞団体：②辰巳農園
日　　時：令和６年２月２１日（水）　１５：００～
場　　所：上川町役場（上川町南町１８０番地）
※ 上記受賞団体の活動については、別紙を参照してください。

【「わが村は美しくー北海道」運動とは】
北海道の農山漁村が持つ、かけがえのない地域の資源（景観･地域特産物･人の交流）を守り、次の世代に引き継ぎ、そこに住む人々が誇りを持てる北海道の「わが村」の未来を創っていこう、との想いから生まれた運動です。「地域に住む方々が主体となった地域づくり活動の普及により、北海道の農山漁村全体が豊かになり、活性化をもたらす」ことを基本の考え方とし、地域で活動する団体などを支援しています。

「わが村は美しくー北海道」運動の情報は、以下のホームページに掲載しています。
https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ns/nou_sin/ud49g7000000emhm.html

【問合せ先】　国土交通省　北海道開発局　旭川開発建設部
土地改良情報対策官　工藤　幸大（0166-32-3449）
土地改良情報対策官付　事業専門官　泉　公生（0166-32-3479）
旭川開発建設部ホームページ　https://www.hkd.mlit.go.jp/as/
旭川開発建設部公式 X（旧 Twitter）アカウント　@mlit_hkd_as

別紙

参加認定証交付式の様子

「わが村は美しく―北海道」運動第11回コンクール応募団体

名寄市立大学援農ボランティアの会

【名寄市】

名寄ならではの環境で農作業＋αの経験・体験を

【はじまりは？】

名寄市の農業は、もち米、アスパラ、スイートコーンなど、全国でも有数の生産量を誇る作物が多くありますが、近年は農業従事者の高齢化やパート作業員の不足が進み、特産物の生産を維持することが難しくなってきています。また、名寄市には保健医療福祉の専門職を養成する名寄市立大学がありますが、農業との接点は少なく、学生に向けて農業アルバイトを募集しても応募が無いような関係性でした。

そこで単なる農業アルバイトではなく、学生と農業のつながりを作り出せるような取組が必要だと感じ、大学や農協、市の担当者が集まって話し合いを重ね、その結果、食農教育という学びも含めた援農ボランティア活動とすれば、お互いにとって有益な関係性を作ることができるのではないかと考え、協力して組織(環境)作りを行うことになりました。

【おもな活動】

学生が援農有償ボランティアとして農作業に従事するための環境作りが主な活動です。

学生が普段行っているアルバイトと農業アルバイトはかなり環境が異なるため、その差を埋めるための工夫を行っています。例えば、作業に必要な道具（長靴や雨具など）の貸出や参加条件の統一（有償水準や休憩、送迎など）です。

そのほか、学生の募集は名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター、農家の募集はJA道北なよろ、貸出品の資金拠出は名寄市とJA道北なよろが担当するなど、各団体が分担して活動を行っています。

収穫作業の様子

【ここが自慢】

農業アルバイトは主にお金を通じた関係となり、農家にとっては不慣れな学生を高めの賃金で雇うことになり、学生にとってはそこそこの賃金で大変な外作業を行うことになります。逆に無償ボランティアは心の報酬だけとなり、農家は繁忙期に多くのコミュニケーションを取る必要があり、受入農家も参加する学生も限られます。

そこで本活動では、「有償」援農ボランティアとすることで、双方のバランスを取っています。

農家は賃金に加えて食農教育の機会（経験や交流）を提供することで、学生は賃金以上の報酬を得ることができるため、参加者も安定して確保できています。

現在では毎年20戸以上の農家に延べ人数で70名以上の学生が参加しているほか、事業終了後に農業アルバイトとして直接雇用されている学生も多数いることから、学生と農家の相互理解が進展しています。

卒業後は名寄市外へ就職する学生が多いため、将来、名寄の農業・北海道の農業・日本の農業の良き理解者・支援者となってくれることを期待しています。

連絡先

代表者名：今野　聖士さん／設立：2017年／会員：60名

住　　所：北海道名寄市西四条北8丁目1
名寄市立大学　教養教育部　今野研究室

電話番号：01654-2-4194

ＦＡＸ：01654-3-3354

Ｅ－ｍａｉｌ：m-konno@nayoro.ac.jp

ＵＲＬ：

製造販売している大豆コーヒー

「わが村は美しく―北海道」運動第11回コンクール応募団体

辰巳農園

【上川町】

安全で責任ある農産物生産と持続可能な農業を実践する

【はじまりは？】

地域の特産物として、もち米、そば、有機質肥料を使ったスイートコーン、大豆のコーヒー、納豆、豆腐、ビーツのヨーグルトムースなど多くの農産物や加工品を作ってきました。

また、令和５年からは、自家で生産したもち米を使った大福やおこわなどを提供する店舗「もちごやマム」（マムとは菊と母の意）を営業しています。

【おもな活動】

秋に実った黄金色の稲穂はそれだけでとてもきれいな景観ですが、それに加え、昨年は道路沿いにひまわりを植えて景観形成をしました。

また、自家製の大豆を使用した大豆コーヒーを「from K」という団体名で町内外のイベントに出店し、そこでのつながりを地域に持ち帰っています。団体名の「K」は、「上川」「菊水」を意味します。

「もちごやマム」は青い外壁が特徴で、特に営農期間外は殺風景になりがちな農村風景に彩りを添えています。

おかげさまで地域内外たくさんの方にご利用いただいているほか、地域の子どもたちへ餅つきなどの体験の場を提供するなど、新たな交流を生み出すことができていると感じています。

【ここが自慢】

我が家で採れた大豆のくずやもち米の米ぬか、もみがらなどを混ぜて発酵させて作る、自家製「有機質ボカシ肥料」を使用したコーンは、「頑固オヤジのパンチコーン」として、ふるさと納税の返礼品になっています。

この名前は開発当時、パンチパーマだったことに由来しています。

豊かに実ったとうきびは、日中の寒暖差が激しい上川町ならではの気候も相まって、非常に甘みの強いコーンに仕上がります。

頑固オヤジのパンチコーン

連絡先

代表者名：辰巳　眞さん／設立：1983年／会員：4名

住　　所：上川郡上川町字菊水５０５番地１１

電話番号：01658-2-3713

ＦＡＸ：01658-2-3713

Ｅ－ｍａｉｌ：hir0178@yahoo.co.jp

ＵＲＬ：

令和５年度入学式

「わが村は美しく―北海道」運動第11回コンクール応募団体

JAふらの女性大学

【富良野市、上富良野町、中富良野町、南富良野町、占冠村】

JAふらの及び地域農業のサポーターを増やします

【はじまりは？】

女性大学設立当時のＪＡは販売事業の取組は強固であるが、教育文化事業への取組が弱い状況でした。このため、各種の活動を通じ教育文化事業の強化を図ること、加えてその活動に農業女性だけではなく、地域住民女性も対象とすることにより、農協に関わりのない方に対するアプローチを強化し、ＪＡふらのおよび地域農業のサポーターを増加させることを目的として、平成22年に北海道初の『女性大学』を開校しました。

【おもな活動】

現在は第12期生と第13期生が在学（２学年制、30人程度/学年）しており、農家以外の学生が約半数を占めています。入学式から卒業式までの２年間で、ＪＡ所有施設の見学、先進農業地域への視察および地元農産物を使った料理講座などの食育関係の活動から、田んぼアート鑑賞や陶芸教室の文化関係の活動まで、バラエティーに富んだカリキュラムを女性部役員が企画・運営段階から携わり、2年間で10回程度実施しています。

西瓜集出荷施設視察

田んぼアート視察

【ここが自慢】

ＪＡふらのが設立した組織で、平成２５年度から一般の方へも周知を行い、積極的に学生を受け入れています。

ＪＡふらのでは、女性部役員が企画・運営の段階から携わり、「女性が企画する大学」としての機能を発揮しています。

女性大学は、仲間を増やす場として、組合員ではない入学者には、ＪＡへの出資をお願いし、准組合員になってもらっており、これにより、ＪＡ組合員として、ＪＡの事業を楽しむ、という輪が広がっています。

また、２年間の活動を終えた学生が、卒業後に再入学を希望するなど、活発で良好な地域交流がなされており、ＪＡ組合員（生産者）と非ＪＡ組合員（消費者）を繋ぐ非常に重要な場となっています。

連絡先

代表者名：学長　植﨑　博行さん
／設立：2010年／会員：63名

住　　所：北海道富良野市朝日町３番１号
ＪＡふらの　営農部　営農課内

電話番号：0167-23-3534

ＦＡＸ：0167-23-6119

Ｅ－ｍａｉｌ：y-takahashi@ja-furano.or.jp

ＵＲＬ：https://www.ja-furano.or.jp/